

別紙 2

機 械 警 備 業 務 処 理 細 目 (案)

機械警備業務処理要領の4(3)に係る事項については、この細目の定めるところにより、業務を処理しなければならない。

1 警備エリア

- (1) 警備エリアは、管理棟1階・実習棟エリア、管理棟2～4階エリア及び共用エリアの3区分とする。
- (2) 管理棟1階・実習棟エリアは、管理棟1階及び実習棟の中で、金品、貴重品、危険物など管理を要するものが置かれている室とする。
- (3) 管理棟2～4階エリアは、管理棟2～4階の中で、金品、貴重品、危険物など管理を要するものが置かれている室、2階廊下及び階段(1階から2階、2階から3階及び3階から4階)とする。
- (4) 共用エリアは、管理棟・実習棟ホール、1階廊下、警備員室及びボイラー室とする。
- (5) 委託者の警備エリア区分及び警報装置設置箇所については、別表1及び図面のとおりとする。

2 送受信機の設置

送受信機は次の機能を備えるものとする。

- (1) 警報装置作動開始及び解除の信号の送信
- (2) 各警備エリアで感知した異常についての信号の送信
- (3) 火災発生感知についての信号(自動火災報知機の移報信号による)の送信
- (4) 施設内各種設備警報番からの異常についての移報信号の送信
- (5) 警報装置及びセンサーの破壊、故障、配線の切断等による不通等の異常を監視する機能
- (6) 各警備エリアにおいて異常がある場合、警備開始等の通信回線のセットを受け付けない機能

3 受信装置の設置

受信機器は、少なくとも送受信機器により送信されてくる上記2の信号の種別の判別ができるものでなければならない。

4 警備センサーの設置

各警備エリアを監視する警備センサーについては、少なくともパッシブセンサー(熱感知センサー)を設置することとし、各警備エリアの全域について侵入等を感知できるようにしなければならない。

5 正面玄関の電子錠化

- (1) 正面玄関については、外扉に電子錠を設置して施錠及び開錠を行うものとする。
- (2) 電子錠は少なくとも次の機能を備えるものとする。
 - ア ①扉が閉まると自動的に施錠、②扉が閉まっても自動施錠しない、等の切り替えを行うことができる機能。
 - イ 電子キーやサムターン等による直接操作のほか、警備員室から遠隔操作による施

錠及び開錠を行う機能。

6 出入管理機器の設置等

(1) 出入管理機器は、出退勤時に警備会社への通信回線のセット・解除のほか、正面玄関の電子錠の施錠・解錠及び警備用キーボックスの開閉を行うために設置することとする。

(2) 出入管理機器は各警備エリアを個別に制御できるものを設置することとする。

(3) 出入管理機器は少なくとも次の機能を備えるものとする。

ア 非接触カード方式（同等機能以上のもの。テンキー式及び鍵式は不可。）により操作を行う機能。

イ 通信回線のセット・解除と職員玄関の施錠・解錠又は警備用キーボックスの開閉を別個に操作できる機能。

ウ 通信回線のセット・解錠の操作について、操作を行った電子キーの特定ができ、捜査記録等を警備会社で管理できる機能。

(4) 共用エリアの警備センサーと電子錠を制御する出入管理機器の設置箇所については、屋外に設置し、機器の誤作動等が生じないような方策（格納ボックスの設置など）を講じなければならない。

7 警備用キーボックスの設置

(1) 警備システムと連動させて破壊、故障その他の異常の有無について監視するとともに、出入管理機器で開閉できるキーボックスを警備員室に設置するものとする。

(2) キーボックスは、5本程度の鍵を収納できるものとする。

(3) キーボックスを警備システムと連動させることができない場合は、同等程度の安全が確保できる方策を講じなければならない。

8 電子キーの設定

(1) 電子キーは、原則カードキー（ICカード）又はタグキー（非接触型操作キー）とする。

(2) 電子キーは、原則1種類とし、上記5から7のすべての操作に対応するものとする。

9 エリア監視盤の設置

(1) 各警備エリアに設置した警備センサーの監視状態を表示し、警備センサーが異常を感知した箇所を特定することができるものとする。

(2) エリア監視盤は、正面玄関および警備員室等操作に適した場所に設置することとする。